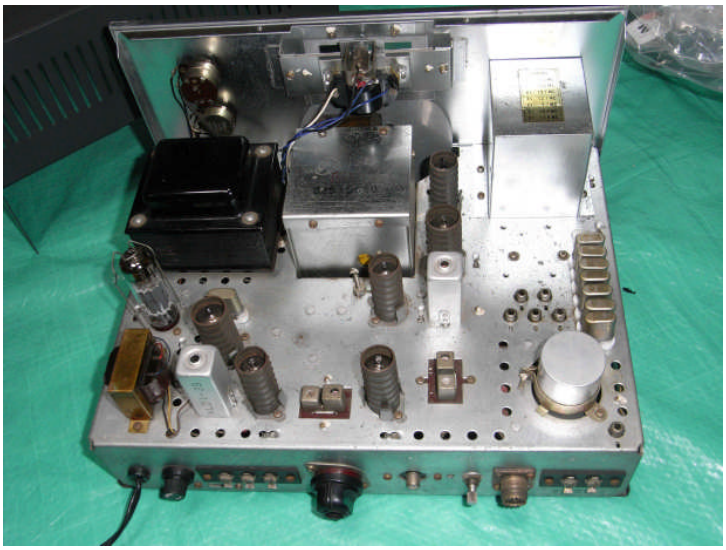
# トリオ　JR-500S　ダブルスーパー受信機

JP1KHY／鈴鹿 和男

最近ヤフーオークションで、真空管式ダブルスーパー受信機を手に入れました。

その昔、中学生の頃、コリンズ方式というのにあこがれて、クリスタルコンバータ方式のトリプルスーパを見よう見まねで自力で作りました。それを思い出して懐かしくて、ついオークションに参加し、手に入れることができました。

自作した時にはお金がなくて、7メガ用の水晶しか買えませんで、7 メガ「シングルバンド」トリプルスーパーになってしまいましたが、1st IF は 5MHz あたりだったか？ 2nd 455kHz、3rd 50kHz で SSB がしっかり受信でき、VK が聞こえたのを今でも思い出します。今では当たり前ですが・・・・中学生のラジオ大好き少年にとっては大感激でした。1960 年頃のことだったでしょうか。当時ダブルスーパというのはクリコン方式(1stIF 可変で数 MHz、2ndIF455kHz)と IF が 455kHz、50kHz という2派があって、50kHz の IF は選択度向上のためが主目的だったと記憶しています。(Q マルチプライヤと呼んだのだったかな？間違ってたらごめんなさい)

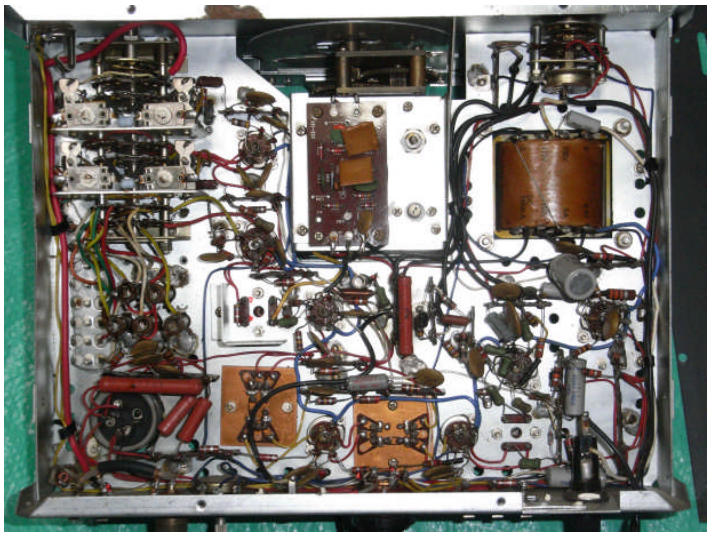


ご本家のコリンズ製なんかは今でも高嶺の花。トリオでクリコン方式の受信機作っていたとは知らなかった。トリオと言えば 9R42J、9R59 といった高1中2が花形で、あこがれたものですが、コイルパックが買えなかったので、こつこつと部品を集めたり、

自分でコイルを巻いたりすることで作れるのはクリコン方式だったわけです。マルチバンドにすれば同じことかも?

今回手に入れたJR-500S 、1966年発売ですから、数年後の製造と考えても「40年もの」です。入手時には動作はするものの、あまりご機嫌が良くありませんで、ハム音があったり、周波数が目盛りと合っていなかったり、音量ボリウムがガリだったり･･･結構楽しませてくれました。一通り手を入れて、今ではそれなりに安定しています。QRHはアナログ VFO ですから仕方ありません。元の形のままでかわいがってやろうと思っています。感度?こんなモンでしょう。IC756ProⅢと聞き比べて勝てるわけはないのですが、S3~5ならこの真空管受信機でも結構きちんと聞こえます。

ラインアップは6BZ6, 6BL8, 6BE6, 6BA6, 6BA6, 6AQ8, 6BM8でVFOは2SC185を2個、電源整流はダイオード半波整流。不思議だなと思ったのはVFOのバリコンとコイルは鉄ケースの中なのですが、発振回路は裸のまま･･･。真空管はシールドしてあるのに････。2ndIF はメカニカルフィルタ。1 バンドあたり600kHz 幅で 3.5～28MHz ハムバンド OK。WARC はもちろんありません。狭受信帯域なので、金属ギヤで減速はしているものの、スプレッドダイヤルというのもいらない。全体としてとても良い構成で、さすがプロの作るものですね。



もう一つ、3.5と7の周波数目盛りが14以上のバンドと逆方向になっています。つまり時計回りに回すと周波数が低くなる。1stIF が 8.9～9.5MHz なのでそうなるのですが、これは必ずしも不都合でないことに気がつきました。SSB の場合 10MHz 以下のバンドではLSB、高いバンドではUSB･････ここまで言って「なぁるほど」とおっしゃる方は相当解っていらっしゃる。受信した音声が高い場合チューニングはどのバンドでも時計方向に回せばよいのです。だからUSB/LSB の切り替えスイッチがない!!

ところでそもそも 10MHz 以下は LSB というのはどうやって決まったのでしょうか?どなたかご存じでしょうか?お教えください。たぶん物の作り勝手からきているのではないでしょうか。

おしまい